

千葉菌、日本菌学会ハワイ大会へ参加

吹春 俊光

2005年の菌学会第49回大会は米国菌学会との合同大会として、7月29日から8月4日までハワイ島ハワイ大学ヒロ校で開催された。2001年の東京大会から菌学会に連続参加している日本各地のアマチュアの会有志も、くじけず参加することになった。毎年、信州、札幌、長崎と各地で開催される日本菌学会では、物見遊山をかねて各地のアマチュアの会と展示と宴会で交流を深めている。もちろん千葉菌も初回から参加している。しかし米国菌学会にはアマチュアの会はあまり本格的に参加していないらしい。さてハワイでどんなかたちで参加するのか。

日本からは多くのアマチュアも参加

日本ならではのアマチュア展示をということで、考え出されたのは、1)日本の代表的毒きのこをポスター展示する、2)自慢のきのこグッズを販売する、という参加方法だった。ポスター制作、現地要員などとして、上川キノコの会、菌類懇話会、千葉菌類談話会、幼菌の会、関西菌類談話会、広島きのこ同好会の6団体に所属する有志が手をあげた。千葉菌からもポスターを携え、数名が現地へ赴いた。日本の毒きのこポスターは、60×90cmサイズで13種14枚という堂々としたものである、しかしかなり場所をとる。掲示する場所あるかどうか、やや不安だったが、ポスター会場が大学の体育館だったこともあり無事全てを展示できた。スギヒラタケ、ニセクロハツという最新情報や日本独自の毒きのこの情報を盛り込み、要旨集には *Poisonous mushrooms in Japan: their taxonomy, toxicology and folklore* という要旨を掲載しての参加であった。京都の奥沢康正先生は、江戸時代からの冬虫夏草の研究史を紹介、仙台の安藤洋子さんは日本産ホウキタケ類の



ヘンテコなものを高額落札するのが粋とされているらしいオークション

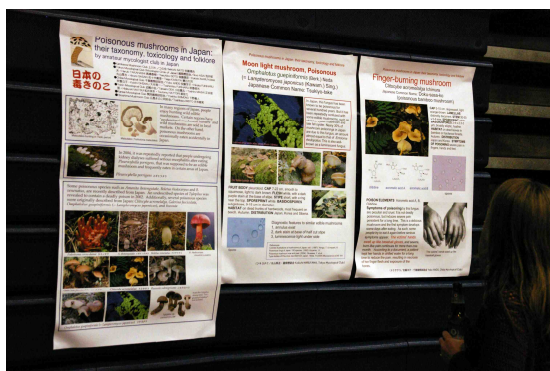


桐生にあったホテルのキノコ模様の浴衣もオークションにかけられ、色によってはかなりの高額落札のものも



オークション会場に不思議な風情で登場した根田大先生に会場は騒然

多数のポスターで参加された。安藤さんはホウキタケ研究の第一人者であこがれの R.H. ピーターセン先生に直接説明の大興奮。きのこグッズの販売では、オリジナルTシャツ、絵葉書、菓子「きのこの山」等を販売し、なかなか好評であった。日本からの参加は総数150名ほど、アマチュアと称する人もおそらく20名ほどいたのではないだろうか。



体育館の折りたたみ椅子に貼り付けた毒きのこポスター



千葉菌のポスター発表を見、その場に横たわっている女性も



ポスター会場は夕食会場を兼ねていたためビールを飲みながら、のんびりきのこグッズ販売



懇親会へはそれなりの風情のある衣装で参加した方々も



3台のスクールバスでハワイ島の各ポイントをまわってきのこ採集

学ぶべき点が多かった

学会そのものは、様々なテーマでシンポジウム形式の発表が4日、きのこ採集会が2日、歓迎レセプション、懇親会、など。米国菌学会のオークションなど、その方法やノウハウなど学ぶべきところの多い行事もあった。大会そのものは大成功であり、大会中やその前後で、参加者それぞれ、様々な、ここでは紹介しきれないような思い出深い出来事があった。千葉菌については行くだけの、アローハな物見遊山大会であったが、学会の主催者の方々は、おそらく合同で開催して本当によかった、の思いが深い大会であったことだろう。

なお、英文ポスターの作成にあたっては、森林総合研究所の服部力先生とリチャード・P・シェファースン先生に全面的な指導をうけた。